国立科学博物館
National Museum of Nature and Science

プレスリリース

2026年8月12日
独立行政法人国立科学博物館

世界最大の「花」のひとつショクダイオオコンニャク 昼間の開花を試みます！

国立科学博物館 筑波実験植物園（園長 遊川 知久）において、世界で最も大きな「花」のひとつ、ショクダイオオコンニャクが8月中旬ごろ開花する見込みです。当園でショクダイオオコンニャクが開花するのは10回目ですが、この株（3号）は、7月に開花した株（1号）から2017年に葉挿し繁殖したクローン株で、今回は開花時間を調節する実験を実施し、昼間の開花を目指します。

【ショクダイオオコンニャクの特徴】

ショクダイオオコンニャクは、スマトラ島（インドネシア）の限られた場所に生えるサトイモ科の絶滅危惧種です。「花」（植物学的には花序＝花の集まり）は高さ3メートル、直径1メートルになるものもあり、**世界でもっとも大きな「花」をもつ植物のひとつ**とされています。また、開花後は独特の強烈な悪臭を放ち世界でもっとも醜い花とも呼ばれています。

開花するのは2017年に1号から「葉挿し」という特殊な繁殖技術で育成したクローン株※（3号）で、今回が初めての開花となります。イモの重量は13.6kg と軽いことから、花序は小さくなる見込みです。この植物は夜に開花する性質があるため、満開の姿を開園時間に公開することが困難です。そこで今回は、開花時間を調節する実験を光環境が制御できる場所で実施し、昼間の開花を目指します。そのため開花するまで展示は行いません。

※クローン株とは親株と同じ DNA を持つ株。



2026年7月23日開花時の様子
（過去の参考写真）
（1号・大個体）

【展示のご案内】

開花の兆候が見られ次第、多目的温室で公開します。
事前に当園トップページのお知らせからメールアドレスをご登録いただいた方には、開花当日、開花情報を試験的に一斉配信いたします。https://tbg.kahaku.go.jp/つきましては、取材・記事の掲載など広報に関して特段のご支援・ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

本件についての問合せ
独立行政法人 国立科学博物館
経営管理部　研究推進・管理課　研究活動広報担当：稲葉祐一　久保田美咲
担当研究員：遊川知久 堤千絵（植物研究部 多様性解析・保全グループ）
〒305-0005　茨城県つくば市天久保 4-1-1
TEL:029-853-8984　FAX:029-853-8998
E-mail: t-shuzai@kahaku.go.jp
国立科学博物館ＨＰ　https://www.kahaku.go.jp/
国立科学博物館筑波実験植物園ＨＰ　https://tbg.kahaku.go.jp/

＜概要＞

・ショクダイオオコンニャク

和名:ショクダイオオコンニャク(燭台大蒟蒻)

学名:*Amorphophallus titanum*

科名:サトイモ科

分布:スマトラ島(インドネシア)の熱帯雨林

花序の最大のサイズ:高さ 3.1m(ギネス世界記録)、直径1m

(註)ショクダイオオコンニャクの「花」は正確には花序(花の集まり)で、例えばヒマワリの花と同じ

・今回の開花について

開花予想時期:2026年8月中旬

花の見ごろ:開花日を含め 2～3 日。2 日目には仏炎苞(ぶつえんほう)が閉じはじめます。

・展示場所について

国立科学博物館 筑波実験植物園 多目的温室 (茨城県つくば市天久保4-1-1)

・特別開園時間について

できるだけ多くの皆さまにご覧いただけるよう、開花日は、開園時間を18:00まで延長します(入園は17:30まで)。

・特設ホームページ

筑波実験植物園 特設ホームページ

コンニャク日記 | 筑波実験植物園 (つくば植物園) Tsukuba Botanical Garden にて、成長の様子や開花の予想、見どころなどを紹介しています。

・ショクダイオオコンニャク3号の履歴

2017年 4月8日 小石川植物園から譲受した1号より、葉挿しにより繁殖

2026年 6月12 日 植え替え(イモの重量 13.6kg;最大幅37㎝;高さ23㎝)



ショクダイオオコンニャク(3号)のイモ
(2026年 6月 12 日)
イモ重量13.6kg

花のつくり

ショクダイオオコンニャクの花のつくり

